

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平3-75924

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)3月29日

G 06 F 3/153

3 3 0 A

8323-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 ディスプレイ端末装置

⑯ 特 願 平1-212294

⑰ 出 願 平1(1989)8月18日

⑱ 発 明 者 三 浦 伸 介 東京都港区芝5丁目7番15号 日本電気オフィスシステム株式会社内

⑲ 出 願 人 日本電気オフィスシステム株式会社 東京都港区芝4丁目13番2号

⑳ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

発明の名称

ディスプレイ端末装置

特許請求の範囲

本体制御部に接続される変調回路と、該変調回路に接続されたトランスミッタと、該トランスミッタに光ファイバケーブルで接続されたレシーバと、該レシーバに接続された復調回路と、該復調回路に接続された表示装置とを含むことを特徴とするディスプレイ端末装置。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はディスプレイ端末装置に関し、特に本体制御部で制御される表示装置を有するディスプレイ端末装置に関する。

〔従来の技術〕

従来のこの種ディスプレイ端末装置において本

体制御部と表示装置間の信号伝送は、第2図に示すように複数本からなる同軸ケーブルと単線ワイヤからなるシールドケーブルまたはフラットケーブル8を介して本体制御部1からの電気信号を表示装置7まで伝送させるものであった。

〔発明が解決しようとする課題〕

上述した従来の信号伝送方式は、本体制御部から出力された電気信号が同軸ケーブルや単線ワイヤを使用したシールドケーブルやフラットケーブルによって伝送されるため、例えばビデオ信号(VD信号)等の高周波信号線からノイズが漏れてしまい、そのために輻射ノイズによって隣接するテレビ受像機、ラジオ受信機等の電波受信装置や微小信号を取扱うアンプ等に障害を与えていた。

〔課題を解決するための手段〕

本発明は本体制御部と表示装置との間に変調回路、トランスミッタ、レシーバおよび復調回路を備え、トランスミッタとレシーバとの間は電氣的に絶縁された光ファイバケーブルで接続するこ

とを特徴とする。

〔実施例〕

次に本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明のディスプレイ端末装置の回路ブロック図である。本体制御部1から出力される直流電気信号は変調回路2によって交流電気信号に変換され、トランスミッタ3の発光ダイオードによって電気信号を光信号に変換して出力する。そして光信号は光ファイバケーブル4を伝送し、レシーバ5の受光ダイオードに入力され、そこで電気信号に変換される。復調回路6によって交流電気信号を直流電気信号に変換し、表示装置7に入力される。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明はパーソナルコンピュータやワードプロセッサ等の特に高周波を取扱う表示装置において本体制御部と表示装置を結ぶケーブルを従来のシールドケーブルやフラットケーブルから、変調回路、トランスミッタ、レシーバ、復調回路、トランスミッタとレシーバとの間

を結合する光ファイバケーブルを使用することにより、ケーブルから外部へもれる輻射ノイズを低減し、他装置への障害を防止できるという効果がある。

図面の簡単な説明

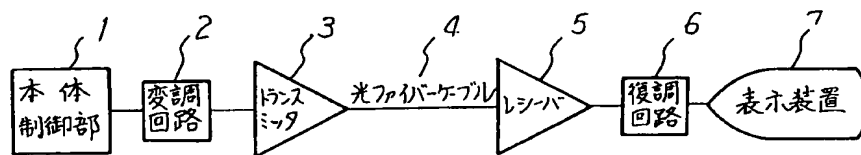
第1図は本発明のディスプレイ端末装置の回路ブロック図である。第2図は従来装置の回路ブロック図である。

1…本体制御部、2…変調回路、3…トランスミッタ、4…光ファイバケーブル、5…レシーバ、6…復調回路、7…表示装置、8…シールドケーブルまたはフラットケーブル等。

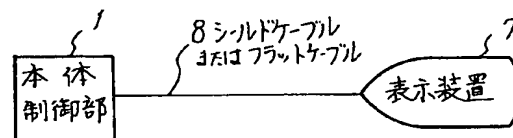
代理人 弁理士 内 原 晋

-3-

-4-



第1図



第2図